

# かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

編集・発行

広島市立広島市民病院  
〒730-8518 広島市中区基町7番33号  
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514

 <http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

## E-BEDシステムへの 取り組み



広島市立広島市民病院 秀道広  
病院長

COVID-19が日本に持ち込まれてから早5年目、第2類から5類感染症に変更されてから2回の夏が過ぎました。この間、11回とも言われる感染ピークは、その都度医療機関に大きいのしかかり、通常診療にも様々な影響を与えました。特に大きな影響は、当院を含む大きな病院では軒並み入院期間が短くなったことです。これは、COVID-19診療のために病床を空けるための対応でもあったのですが、急性期、高度急性期病院に適用されるDPC (Diagnosis Procedure Combination) と呼ばれる包括的な診療制度のために、各病院はこれまでよりかなり厳しい病院運営を求められることを意味します。DPCのしくみはかなり複雑なのですが、要するに大きな病院では、これまで以上に短期間で効率よく入院治療を行わないと、これまでの様な診療報酬を受け取れなくなったとことを意味します。医療は営利事業ではなく、患者さんには必要かつ最善の医療を提供するために全力を尽くしますが、収支が赤字になると、設備はもとより必要な医療機器の購入もできません。近年、社会の高齢化の影響で、病院ではより高度、難治な例が増える傾向にあり、その診療は従来よりも一層濃厚なものになってきています。そのため、同じ入院でも、各疾病に対して専門性の高い、あるいは手慣れた病棟で入院加療することが望まれます。しかし、病棟には得手不得手、向き不向きもあり、例えば小児科病棟に大人は入れませんし、精神科病棟に他の疾患の患者さんに入って貰うこともできません。何週間、何ヶ月も前から入院、手術を予定し、仕事の段取りも付けておられる患者さんのためには、予定の日に入院いただくための確実な病床確保も必要です。

そのため、当院の全743の病床は、常にあちこちに空きがあるにも関わらず、本来当院での入院治療が妥当と思われる患者さんの入院をお断りしたり、長く待っていただくことが多く生じるようになってきました。広島市民病院では、救急車が断られることが多いというお叱りも多く頂いています。

そこで今年5月から、一人でも多くの患者さんの入院を受け入れるために、病床を管理するための新たな電子カルテソフトを導入し、専任師長を配置して、院内すべての患者さんの退院見通しを一元的に掌握し、病床利用を管理する体制、名付けてE-BED (Empty Bed for Every Disease: すべての病気のための空床) システムを立ち上げました。

その結果、今まだわずかではありますが、一人一人の入院期間は短いまま病床利用率が上昇し、緊急入院要請への応需数も増加しています。一方、入院中の患者さんの状態に合わせた病室の移動や、従来よりも短い入院での退院や、他施設への転院をお願いすることが、これまで以上に多くなりました。また、専任師長は外来診療部門を整理して配置したため、外来診療部門の担当者の負担は大きくなっています。その他、新しいシステムを齟齬無く運用していくための多くの改善や、各部署の慣れもまだまだ必要です。

私達は、これからも一人でも多くの患者さんに最善の医療を提供するため、あらゆる努力を惜しまず、新しい可能性に挑戦する決意です。そしてこれらの改革を、病院で働く職員はもとより、病院を訪れる患者さんやご家族、およびその周囲の人達とともに作り上げていきたいと思っています。

世界の誰もが知っている広島で、人々のいのちと健康を守る広島市民病院を、これからもどうぞ宜しくお願いします。

# 就任のご挨拶

平素より広島市立広島市民病院にご高配を賜り感謝申し上げます。  
私は令和6年（2024年）4月1日より、臨床検査部主任部長を拝命いただき勤務させていただいております。人生で初めてバスに揺られながらの通勤となりました。

僭越ながら私の略歴をご紹介します。昭和59年（1984年）に広島大学医学部を卒業後、2年間の内科ローテ研修医を経て原医研内科（現血液腫瘍内科）に入局しました。大学院卒業後、平成4年（1992年）米国UCSB大学に留学し、インターフェロン（IFN）によって誘導されるPKR遺伝子のクローニングの研究を行いました。その後は広島大学血液内科に戻り、臨床診療に加えて多発性骨髄腫と慢性骨髄性白血病（CML）の研究を継続しました。平成19年10月から呉医療センターに赴任し、平成20年4月からは広島市立安佐市民病院で血液内科医として診療に従事してきました。令和6年3月に同院を定年退職後、当院で再雇用いただきましたこと深く感謝しております。



臨床検査部主任部長

田中英夫

他の分野と同様に、私の専門分野の血液内科も、私の研修医時代からは想像もできなかったほど進歩しました。特にこの約25年間で多くの新たな治療法が出現しました。典型的な疾患がCMLで、以前は不治の疾患であり多くの患者さんで悲しい思いをしましたが、現在は内服薬でほぼ治る疾患になりました。私は特にCMLの診療と研究をテーマとしてきましたが、時代の変遷に感慨深い思いがします。さらに細胞治療、遺伝子治療、再生医療の進歩が著しく、日本発のiPS細胞を用いて血小板等の血液細胞を作ることにも成功しており、いずれ臨床治療に広く応用される時代が来ると思われます。

さて、私は病院全体の臨床検査を横断的に俯瞰して統括する役務を担っておりますが、当院臨床検査室（病理検査室も含む）は2019年に国際標準規格（ISO15189）を取得しています。ISO15189取得病院は広島市では当院を含めてわずか4病院のみであり、このことは臨床検査の信頼性や品質マネジメントシステムが世界的基準で認められていることを意味します。

今後も、地域医療機関の先生方と連携強化のもと、当院の救急・高度医療・がん診療等のいっそうの強化に、微力ながら貢献できるように努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど頂きますと幸いです。



# 放射線治療装置が新しくなりました ～マーカーレス治療、始めました～

2023年9月、15年稼働した放射線治療装置を更新し、高精度放射線治療装置（TrueBeam Varian社製）と次世代型X線画像誘導装置（ExacTrac Dynamic® BrainLab社製）を導入しました。

TrueBeamは、以前の治療装置に比べ治療する部位に対して放射線をより正確に照射できる装置です。

あらゆる部位のがんに対応しており、1mm以下の高精度な駆動制御で、腫瘍に厳しく正常な臓器に優しい治療ができます。



ExacTrac Dynamic®は新技術である4Dサーマルサーフェスカメラを使い、体表面情報を用いて位置合わせを行うことができる最新の装置です。

このExacTrac Dynamic®の導入を契機に、当院では体に印を描かない“マーカーレス放射線治療”を始めました。

従来の放射線治療では、体にマジックや皮膚用のインクで印をつけ、その印を用いて位置合わせを行っていました。しかし体に印を描くと衣服に色がついてしまったり、首元から印が見えてしまったり、なにより印を消さないように気を遣いながら過ごすことがストレスになるなど、患者さんを精神的に苦しめる要因となっていました。

マーカーレス治療では、ExacTrac Dynamic®の立体構造を取得するカメラで患者さんの体表面を検知し、治療位置まで自動で移動する機能を使うことで、体に印をつけずに治療ができるようになりました。

印をつけない放射線治療は、たくさんの患者さんに喜んでいただいています。

また治療を行う部屋も一新し、治療室の天井や壁に空や森などの自然風景を高解像度に表示するディスプレイシステムを設置しました。

見慣れない装置に囲まれての治療は患者さんの心身に負担となりますが、いつも安心感を与えてくれる広大な空の下なら、リラックスしながら治療を受けていただければと思います。



# 石川県災害派遣ナースについて

看護部

令和6年能登半島沖地震災害に対して、看護部より災害支援ナース派遣（日本看護協会）、被災医療機関支援（全国自治体病院協議会）を行いました。まず、日本看護協会による災害支援ナース派遣では、1.5次避難所である小松総合体育館にGCU 植田明子看護師、東8B 池田薫看護師（1月21日～24日）、救急外来 板原容子看護師、ICU 奥野和子看護師（1月27日～30日）を派遣しました。1.5次避難所とは、要配慮者とその家族に対して被災地避難所から被災地外の一時的な避難所として運営し、ホテル・旅館などへの移動を支援する場所です。しかし、実際には要介護の高齢者も多く移動が難しい現状を目の当たりにしました。被災者への支援は試行錯誤しながらも、看護が専門とする環境の調整や各種マニュアルの随時修正などを行いました。そして、全国自治体病院協議会による被災医療機関支援のため2月6日～12日金沢市立病院へ、救命救急センター 大西奈緒看護師とICU 平家歩美看護師を派遣しました。金沢市立病院では救急外来と内科・感染症病棟の日勤業務応援を行いました。発災後1ヶ月が経過し、救急外来にはコロナ感染などで衰弱した被災者や、孫の住む一人暮らし用のマンションに避難している高齢のご夫婦が入院を希望されるなど発災から日数が経過した中での様々な課題が生じていました。また、生涯の療養場所であった施設が全壊したため、長期入院となり療養先が見つからない高齢者も複数入院されていました。さらに、二次救急を担う病院では被災者以外の救急患者も多く医療者の疲弊を感じました。医療者自身も被災者あるいはその家族であり、休日には災害後の片付けやボランティア活動をしている方もおられました。私たちは初回派遣だったため、次の派遣者へ病棟業務内容などをまとめ病棟へお渡ししました。災害はいつどこで起こるかわかりません。全国の被災地へ思いを寄せながら当院でも災害への備えを怠らず、いつでも対応できる知識と技術を身につけていきたいと考えています。



## 基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

### ～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

## 患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

## 外来診療のご案内

### 診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分  
※眼科/火曜日  
午前10時00分まで  
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

### 休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日  
年末年始（12月29日～1月3日）

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科7,700円、歯科5,500円（R4年10月から）のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。